



2025 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 2

SUPERBIKE RACE in SUGO



■ 宮城県
■ スポーツランドSUGO
■ 1周=3.6211km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **11** 関口 太郎

RACE 1

5月24日(土) 天候: 曇り コース: ドライ

予選 14 番手 (タイム: 1 分 27 秒 909)
決勝 10 位

RACE 2

5月25日(日) 天候: 雨のち曇り コース: ウエット・ドライ

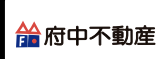
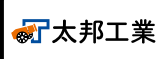
予選 13 番手 (タイム: 1 分 27 秒 942)
決勝 8 位



三明電気工事



Motorcycle CS2



煮詰め切れなかったSUGOラウンド

全日本ロードレース選手権第2戦が宮城県・スポーツランドSUGOで5月24日（土）・25日（日）で開催。今回、JSB1000クラスは2レース制で行われた。



開幕戦もてぎ2&4レースでキットエンジン“Type7.2”を投入するも使いきれなかったが、今回はオートレース宇部からアルファレーシングを事前テストに呼ぶのでシェアしようという申し出があったため、これを承諾。エンジニアのジュリアンはよく知っているし、関口としてもキットエンジン“Type7.2”を使い新たな足回りの方向性を探りたいところだった。SUGOは、このオフに路面が新しく改修されグリップが上がり、新路面に合わせたセットも必要になっていた。事前テストでは、タイム的には、まずまず。ロングランも行い、アベレージも悪くはなかったがフィーリングは、今ひとつのまま事前テストを終えていた。

レースウィークに入り、ニュータイヤでうまくタイムアップできるように試行錯誤するが、前日の雨上がりということもあり、路面コンディションも変わり、なかなか良いところが見つからないまま初日が終了。土曜日の公式予選は、レースを見据えて、まずはユーズドタイヤで走りペースを上げると1分27秒909を記録し自己ベストを更新。ピットに戻りニュータイヤを履いてアタックするが、マイナートラブルが出てしまいタイムを更新できずに予選は、レース1が14番手、レース2が13番手とくしくも昨年と同じ予選順位となっていた。



チームと話し合い、レース1は、予選と同じセットで臨むことに決めグリッドに向かう。スタートは、まずまず決まり、オープニングラップを11番手で終えると4周目にトラブルで1台、転倒で1台脱落したため9番手に浮上。前をいくライダーを追っていく。しかし、レース終盤はペースを上げられず、追い上げてきた選手に最終ラップにかわされ悔しい10位となる。



日曜日は朝から雨となり、朝のウォームアップ走行はウエットコンディション。天気は回復方向だったが、キットエンジンでウエットを走り感触を確認。レース2が始まるころには、ほぼ路面は乾いていたが、ウエットパッチが残る難しいコンディション。関口としては、チャンスを引き寄せたいところだった。



22周で争われたレース2。スタートすると直後の2コーナーで1台が転倒。予想通り全体的にペースは遅く、トップのライダーも見えている中、オープニングラップを8番手で終えると2周目に1台をかわして7番手に浮上。9周目に1台にかわされ8番手になると、ペースをキープするのが厳しくなり、単独走行になっていく。レース終盤に後方から追ってきたライダーがいたが、これを抑え8位でチェッカーフラッグを受けた。

レース1、レース2とも厳しいレース内容でした。結果的には、まずまずなのかもしれませんが、事前テストで、もっとセットを詰められていれば、上位に最後まで食らいついていける可能性があったと思うと悔しいですね。今回の経験を生かして、この後の鈴鹿8耐、そしてシーズン後半戦につなげていきたいと思っています。SUGOにも三明電気工事・石塚社長を始め、多くの皆様が応援に駆けつけてくださいました。本当にありがとうございます。鈴鹿8耐も頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いたします。

関口 太郎

